

集い来し、若もの達



長万部支会長
(長万部小学校)
工藤 彰子

長万部町は内浦湾最奥部に位置し、以前は鉄道の分岐点として交通の要所として栄えていました。

今現在は「豊かな心と個性を育む教育・文化・スポーツの町」として、文化的な環境づくりに力を注いでいます。価値ある文化財を幅広く町内外の方に紹介しています。文化財を多数収蔵する平和祈念館、植木蒼悦記念館、鉄道全盛の時代を伝える鉄道村等は町を代表する文化財です。学術と文化の町、長万部町内の小中学校も、平成二十二年には四校となつてしまいました。平成二十年度に共立小学校が、そして、平成二十一年度には中の沢小学校が相次いで閉校してしまつたためです。しかし、平成二十二年夕陽会長万部支会は、道幸教育長様はじめ、小学校・中学校の校長・教頭全てが夕陽会員です。さらに

長万部高等学校の関教頭も夕陽会員で中高一貫教育の面でも連携が図りやすい環境にあります。

そして、六月に行われた長万部支会の大懇親会で大変嬉しかつたことがあります。それは、一般会員の参加者が管理職の人数を上回つていたということでした。静狩小の仮直人先生、長万部中学校の山田好一先生、岩本匠先生、金子智和先生、杉林あゆみ先生、長万部小学校の蛭沢佳太先生、佐藤麻美先生、石崎寿和先生が出席しました。

それぞれが大学時代の思い出を語り、母校への誇りや愛着を強く感じるひとときを過ごすことができました。長万部支会の特徴は若い先生方が各校の中核となつて活躍しているということです。小学校間の横の連携も、小中の縦の連携も積極的に行われていきます。多くの先輩が抱いて来られた「熱き想い」をこれからも伝えていかなければならないと改めて思いました。

職員室

「ミニの利点を生かして」



鹿部支会幹事長
(鹿部小学校)
川野 真一

鹿部町は、基幹産業である漁業の町、潤いのある温泉や自然を活かした観光の町、更にはホテルやゴルフ場を備えたりゾートの町として発展してきました。近年、定年退職後のセカンドライフを過ごそうと、駒ヶ岳山麓のリゾート地には本州方面からの移住者が増え、一つのコミュニティが出来上がっています。

教育に目を転じると、移住者の有志数名が昨年度より学校支援事業に携わり、小学生の水泳指導や中学生のサポート学習、そして無償で学習指導する「しかべ寺小屋」を開講するなど子どもたちを支援しています。また、今年度から始まつた「しかべつ子図書無償支給事業」では、幼稚園児から中学生まで全員に好

きな本が無償で支給され、読書活動を通じての学力向上を目指していますし、町民憲章の理念をうけた「きらめく海・駒ヶ岳(やま)・うるおいの湯(ユートピア)」のキャッチフレーズのもと第五次教育推進計画がスタートし、将来の鹿部町を担う人材の育成が期待されています。さて、今年度の鹿部支会は幼稚園一名、小学校十二名、中学校十一名の合計二十四名のミニ支会ですが、会員の絆、連携、フットワークの軽さが持ち味となつていきます。六月には、本部から橋田会長様、支部からは類家副支部長様をお迎えし、年次総会と懇親会を通じて同窓の絆を一層深めることができました。鹿部町教育委員会山田教育長様にもご臨席賜り、会に華を添えていただきました。

このようにミニ組織の鹿部支会ではありますが、激動・激変の教育界をしっかりと受け止め、教育の進むべき方向と質の向上をめざし、幼・小・中の連携と団結のもと、鹿部町の子どもたちの健全育成に鋭意努力したいと思ひます。

支会だより

「願いに応える
プロをめざして」



五稜支会長
(渡島教育局)
嶋 田 聡

「選手達は、走りのプロであつて、私は、選手達をより速く走らせるプロなのである。」シドニー五輪金メダリストの高橋尚子を育てた小出義雄氏の言葉です。

今年の五稜支会は、わたしを含め、義務教育指導監鈴木祐司、義務教育指導班主査永澤篤、指導主事青木順一、熊谷誠、北嶋公博、社会教育指導班主査小田将之の7名の構成となつています。

この十月末までの活動状況については、渡島教育局主管の研究事業や学校経営訪問及び学校教育指導、各種会議での助言等を行つており、そのほかにも、学校や先生方とかかわる機会をもたせていただきながら、教育局としての役割を進めさせていただいているところです。こうした活動を推進することができ

るのは、何と言つても、各学校の御理解と御協力のお陰であり、お力添えをいただいている皆様に感謝を申し上げたいと思います。

また、渡島の子どもたちのために、日々の研鑽を積み重ね、それぞれの指導力や実践力を一層高めようと、自らに磨きをかけて続けている各学校の先生方に対して、改めて頭が下がる思いでおります。

小出義雄氏の言葉を借りて、私たち渡島教育局に求められている役割を表すと、「先生は、子どもを直接教育するプロであつて、私たちは、管内の教育力をより高められるプロでなければならぬ。」と気を引き締めているところです。

管内の先生方と、直接または間接的にかかわらせてもらう中で、皆さんのニーズに答えられるプロ集団としての五稜支会となるよう、今後とも努力を重ねていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。



支会だより

「同窓の絆をより深く」



木古内支会
(鶴岡小学校校)
佐 藤 耕 一

みそぎと咸臨丸の眠る町として知られる木古内町。百八十年の歴史を誇るみそぎ祭りは、豊漁・豊作を願い、毎年一月十五日、厳寒の海でご神体を清める伝統ある祭りです。また、町内

サラキ岬沖に眠る咸臨丸は、今年で渡米百五十周年にあたります。八月には「きこない咸臨丸まつり」が熱気あふれる中、盛大に行われます。町挙げての二大祭りは、町外にも広く知られたり、毎年多数の人が訪れます。

さらに、近年は、北海道新幹線の整備も着々と進んでいきます。新幹線の通るトンネル工事や北海道側の新幹線駅として、平成二十八年開業予定の木古内駅周辺の整備計画も順調に進み、今後のさらなる町の活性化が期待されます。

さて、木古内支会の現状ですが、現職会員数は、木古内小学

校十名、鶴岡小学校四名、木古内中学校五名の十九名、OB会員は六名で、町内に在住しており、側面から支援をいただいております。釜谷小学校、泉沢小学校、札苅小学校があった七年前の支会の隆盛とは比較にならない状況ですが、少数ゆえに互いに気心が知れ、同窓の仲間としての絆も強くなります。

今年度の支会総会は、六月二十五日に町内老舗の鮎店「清本鮎」で行い、二十二年度の活動をスタートさせることができました。総会には来賓として、本部長・橋田恭一様、副部長・橋田恭一様、本部の状況や当支会に対する励ましのお言葉をいただきました。その後の懇親会では、渡島支部副支部長・細川敬太郎様、木古内町教育委員会教育長・野村広章様にもご臨席いただき、大いに親睦を深めることができました。

残念ながら次年度は、鶴岡小学校の閉校により、さらに会員数が減少します。人数は少なくなりますが、少数精鋭による団結力の強化で、よりいっそう同窓の仲間としての絆を深くしていきたいものと考えます。

新会員だより

「そよ風」の如く



五稜支会
（渡島教育局）
青木 順一

今年四月、十勝教育局から日高山脈を越え、渡島教育局に転勤となり、約二十年ぶりの函館在住となりました。大学時代の四年間お世話になった渡島・函館の地に根ざし、「馬糞風」とはなりません、自分が今まで経験したことを、少しでもこの地に還元できるよう、新しい「そよ風」を漂わせたいと考えております。

学校訪問でお世話になることがあるかと思えます。十勝でも同窓の諸先輩方にはお力添えをいただき幾度となく助けていただきました。今後とも御協力をお願いいたします。

「難しいことは易しく、易しいことは味わい深く、味わい深いことは面白く。」

この言葉を胸に、先生方にお話したいと思えます。

今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

「同窓の皆様を支えられ」



五稜支会
（渡島教育局）
熊谷 誠

卒業以来、二〇年ぶりに渡島に戻らせていただきました。教員としてスタートを切った檜山、その後長くお世話になった胆振、そして指導主事として赴任した日高と、いずれも夕陽の皆様が多い地域で勤めさせていただきました。振り返れば、常に同窓の皆さんに教えられ、支えられた教員生活です。

特に、指導主事となってからは、その有り難さを深く実感しているところです。

渡島に来てからは、懐かしい先輩、後輩、同級生の皆さんにお会いすることもあり、うれしく感じるとともに、改めて渡島に赴任した責任を重く受け止めているところです。

今後、多々助けていただく場面があると思いますが、皆さんのお役に立ち、期待に応えられる職務を目指し、尽力して参りますので、どうぞよろしくお願いたします。

「感謝」



五稜支会
（渡島教育局）
北嶋 公博

「渡島で働きたいと思ってる人はたくさんいます。そんな人達の思いを忘れずに、頑張ってきてください。」渡島教育局に異動することを報告させていただいたとき、夕陽の先輩にかけていただいた言葉です。

渡島教育局の指導主事（特別支援教育スーパーバイザー）として着任し、教育委員会の方々や学校の先生方、子ども達や保護者の方々、他機関の方々などと直接かわらせていただくことができ、その役割の大きさや責任の重さに戸惑いながらも、たくさんの方の励ましをいただき、やりがいを感じる事ができております。皆さんに支えていただいていることに心から感謝しながら、今後も、一人でも多くの人の役に立てるよう努力を重ねていきたいと思えます。

「多くの人に支えられて」



知内支会
（知内小学校）
三 谷 ゆかり

今年の春に函館校を卒業し、知内町立知内小学校に赴任しました。大学在学中は、多くの諸先輩方にご指導・ご支援をいただき、ありがとうございます。

この半年あまりを振り返って一番に思うことは、多くの人に支えられて今の自分がいるということ。教師という仕事は想像していた以上に難しく、一人では抱えきれない課題に直面することや、一人では立ち直れないほど落ち込むことも多くありました。その度に、周りの先生方が救いの手を差し伸べてくれ、大学時代の先輩方が励ましの言葉をくれ、同期の仲間が悩みを共有してくれました。

これからも壁にぶち当たることはあると思いますが、支えてくれている人々のご厚意に報いることができるよう、精一杯頑張っていきたいと思えます。ご指導よろしくお願い致します。

「新たな気持で」



知内支会
（知内中学校）
金 子 潤

六年間、高校で教員生活を送ってきましたが、今年度縁があつて当初からの希望であつた中学校に赴任することができました。

知内中学校で過ごしてきたこの半年間は非常に早く感じられるものでした。担任をもたせていただき、素直な生徒たちとともに楽しい毎日を送ることができています。中学校は一年目になります。高校との違いなどに戸惑いながらも多くの先生方に支えられ、学ぶことも多く、非常に充実した毎日を送ることができています。

高校で学んだ六年間は自分の教員生活の基盤となるものと考えております。その基盤を生かしながら、中学校の教育に少しでも貢献できればと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

「教員生活の幕開け」



知内支会
（知内中学校）
福 士 敏 也

四月から初任者として知内町立知内中学校に赴任しました。大学を卒業して二年間、同じ知内町の知内高校で時間講師として働き、去年教員採用試験に晴れて合格し、今年から知内中学校で教諭として新しい生活をスタートしました。

高校から中学校への異動で、はじめはとても不安でしたが、周りの先生方の優しさ、そして何よりも知内町の明るい子供たちのおかげで、すぐ学校に慣れることができました。

同じ町内の学校を異動したこともあり、中学校に来る前は、住むところも変わらず、通勤の道もほとんど変わらないということもあり、あまり新天地でのスタートという気持ちではありませんが、いざ働いてみると、生徒の対応や、授業の違いに、悪戦苦闘しながら、日々楽しく頑張っています。

「子ども達と共に」



北斗支会
（上磯小学校）
保 坂 裕 司

念願であつた教師としての毎日、周囲の先生方の励ましや子ども達の元気な姿に支えられています。

この度、新採用として北斗市立上磯小学校に赴任して、早くも半年以上が過ぎました。教壇に立って、私が小学生の頃お世話になった先生は、こんな思い出だったのか、また、こんな見方をしていたのかと、改めて感謝と尊敬の念を抱いています。そして今、少しでも近づきたいと自分自身を奮起させています。

子ども達と共に多くのことを発見し、経験豊かな先生方から学びながら、毎日を実りあるものにするように努力していきたいと思えます。

未熟ではありますが、子ども達の明るく素晴らしい未来のために尽力してまいります。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

「諸先生方に支えられて」



北斗支会
（上磯小学校）
畑 中美穂

私は、今年の三月に函館校を卒業し、北斗市立上磯小学校に赴任となりました。

初めて教壇に立つてから早くも半年あまりが過ぎましたが、何事にも戸惑い、壁にぶつかってばかりの毎日です。授業構成や進め方、子どもたちのかかわりなどがうまくできずに悩む日が多くあります。その度に、周りの先生方にアドバイスを温かいご指導をいただき、充実した日々を過ごしております。そして、教職の難しさを痛感しながらも、子どもたちの笑顔に囲まれ、子どもの成長を感じることでできるこの職業の魅力を感じております。

未熟な身ではありますが、諸先生方が実践されていることから多くを学び、先生方に少しでも近づけるように精一杯努力していきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

「ふるさと」



鹿部支会
（鹿部中学校）
佐々木 結子

私はこの春、鹿部中学校に赴任致しました。教員に採用されてからの四年間を留萌管内の増毛で過ごして参りました。道南とは違い、冬の寒さは大変厳しく、特に新採用時はふるさとを離れての不安と緊張でいっぱいだったことを、今では懐かしく思い出します。増毛での日々は人々の温かさを痛感できた貴重な四年間でありました。

函館を離れても私の心にはいつも「ふるさとで恩返しがいっぱい」という想いがあり、この度の移動で願いが叶い、大変嬉しく想っております。お世話になった恩師や先輩、同期、後輩との再会、ふるさとの訛りが私を温かく迎えてくれました。こちらでは充実した毎日で、気付けば冬を迎えようとしています。音楽の力で子どもを育て、恩返しをしていく所存です。どうぞよろしくお願い致します。

「出会いを大切に」



森支会
（森中学校）
村上 沙耶

四月に森町立森小学校に正式採用として赴任してから、早くも半年以上が過ぎました。これまで二年間、同校で期限付教員として勤務させていただいており、慣れた環境での採用ということ嬉しく感じております。

慣れた環境とはいえ、新たな発見や教育の難しさを痛感する日々です。悩むことや落ち込んでしまうことも多々ありますがその度に先輩の先生方に相談に乗っていただいたり、励ましていただいたりしています。経験豊かな先生方から学ぶことは多く、自らの考えを深めたり広めたりすることにもつながっています。子どもたちの笑顔にも支えられ、毎日が充実しています。

これからも先輩の先生方や子どもたちとの出会いを大切にしながら、精一杯努力し、教育活動に励んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

「支えられていること」



八雲支会
（八雲小学校）
阿部 聖

教育大函館校を卒業したあとに、通信教育で教員免許を取得しました。それから赤平市で期限付き教員の経験を経て渡島に戻ってこれました。現在は八雲小学校に勤務しています。

ここに辿り着くまで、たくさんの人に支えられてきました。自分を応援してくれる人たちのおかげで教員免許を取り、採用試験にも合格することができました。本当に感謝しています。また、支えられて生きていくこと、人とのつながりが大切だということがわかりました。

現在の八雲小学校の多忙な毎日の中でも、先輩の先生方にいろいろな場面で助けていただいています。渡島でも人とのつながりを大切にし、支える立場にも立てるよう一生懸命努力して教員としての力をつけていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

終身会員の声

生きていくだけで



昭和三十三年卒 二類
中村 照平

早いもので退職後十三年目。最近、特に一日一日が過ぎ去るのがものすごく速く、正に光陰矢の如しを実感している。

教育の仕事一筋に、敷かれたレールの上をまっしぐらに進んできた、四十年間の現職時代もそうだった。住宅と学校を往復する毎日、アウトドアなどの遊びを覚える暇も意欲も無かったし、海外はおろか国内旅行も念頭に無かった。

大過なく退職を迎え、レールから降りた。ようやく与えられた自由時間だからと、何の仕事にも就かず、町会役員などの依頼も断った。現職時代にできなかった長距離ドライブや、ツアー旅行などで飛び回った。しかし、それも六、七年続いているうちにだんだん間遠になり、回数も少なくなってきた。

いつの間にか、健康体が何よりの宝物と、退職した直後から始めていた一週二、三回のウォーキングと、一、二回の筋・体力増強運動を続け、これまで思うように時間の取れなかった読書三昧。

季節毎に必要な、家の内外の仕事をしながら、時には「自分は何のために生きているのか」と、先行きのことを考え、不安を感じることもあったが、著名な作家のエッセーに「生きていること、そのことだけで大事なこと」という一文に接して、心を強くしている。今日も天気がいい。絶好のウォーキング日和だ。

私の一日



昭和三十三年卒 二類
橋本 亮二

私の普段の一日の生活は、朝刊に目を通し、テレビのワイドショーを観ることから始まる。朝食のあと、書斎で昨日のことを思い起こしながら「記録」を書く。日記と言ってもよいのだが、事実に重きを置いているのであって「記録」とした。私事から世の中の出來事も書き加えている。百ページの大学ノートを年間四冊ペースで三十数年も書いていたので、いつの間にか二五冊目になった。

それが終わると、「新聞の切り抜き」をする。記事を切り抜くのでなく、新

聞に載っている挿絵、イラストなどを切り抜くのである。切り抜いた「絵」は、動物、植物、人物、風景などに分類して保管し、ある程度まとまった段階でスクラップブックに貼って仕上げるのである。現役時代から五十年も続けてきたので、A4スクラップブックで約百冊に三万五千点以上の「絵」を集めることができた。この作業が終わると昼近くになる。ただ火曜と木曜の午前だけは、文化教養講座の講師と老人大学の受講で外に出る。市内には三つの老人大学があるが、七年かけてすべてのをこの秋で卒業できた。

町会と民生委員



昭和三十三年卒 二類
深 栖 逸 夫

資料を作成したり、市の防災訓練に出席したり、亀田川河川敷の草取り、町内のゴミ拾い、花壇の花植え、夏祭り、敬老会など結構多忙です。社会奉仕の精神がなければ出来ないことが多いです。また、多くの町民とのふれあいが出来たことはありがたいことです。

もう一つは退職後の十二月より続けている民生委員の仕事です。現在は三町二十七名で構成している地域の会長をしています。

民生委員の仕事も昔に比べて対応する仕事も多く複雑になっております。ひとり暮らしの高齢者が増え、所在不明の問題や子供、高齢者の虐待等マスキミを賑わす事柄以外にも多くの例示があります。見守り、声かけなどを目的に、訪問連絡活動や様々な相談を受けたり、生活支援の活動、世帯の支援に必要な情報収集など非常に多いです。苦勞もありますが、ボランティア精神で残りの三年間頑張りたいと思えます。

人生「〇勝〇敗？」



昭和三十三年卒 二類
藤田 允

「サンデー毎日」になって六年目テレビを観る時間も自然に増えてきた。先日、某テレビ局のゲストコーナー

に、あの「マチャアキ」こと「塚正章」さんが出演、例の如く巧みな話術と楽しい話に引き込まれ、最後まで観てしまった。最後に司会者が「今までの人生は？」と言う質問をした。堺さんの書いた答えは「五勝四敗一分」の言葉だった。

いろいろな事があった人生だが、その中では勝つ事だけが大事なのではなく、むしろ負ける事も大事であり、負けた事の中からこそ多くを学んだと言う話だった。そして今貴重なのは、何の利害関係もなく、ありのままの自分を出せる場があり、出し合える家族や仲間が居ると言う意味で「一分」を大事にしたいと語ってくれた。大いに共感した話だった。

では自分の人生はどうだろうか。何を勝ちとし、何を負けとするか基準もないし、大まかな自己評価だが、「四勝四敗二分」位にと落ち着いた。(大分甘めかも……)

残された余生、この「分」を大事にし、日々、前向きに、のんびりと楽しく生きていきたいと思う。最終的に「三勝三敗四分」位に終われたら最高の人生だと思

う。そう思うと、新しい楽しみや活力が新たに生まれてくるような気がした。嬉しい気持ちになった晩秋の一日だった。



大沼生活十二年の回想



昭和三十三年卒 二類
吉田 房 男

風光明媚な大沼に居を構えて十二年が過ぎました。今日まで夫婦ともども日々健康で過ごせた事に何よりの幸せを感じます。

朝起きると、散歩から一日が始まります。いつの間にか①大沼周遊道路コース②農道コース③大沼公園内の島めぐりコースと三つの散歩コースが出来ました。早朝一時間三〇分ほどかけて歩きます。愛犬(ハスキー犬)を連れたの散歩です。四年目から妻も加わり二人と一匹の散歩です。

私はいつも一眼レフを携帯し、途中気に入った景色を写真に収めます。早く先に行きたい妻と愛犬のブリーングを聞き流して、駒ヶ岳・大沼・水芭蕉・こぶし・桜と尽きぬ被写体にシャッターを切ります。冬は凍結した湖面をよく歩きました。凍りついた湖面で愛犬の首からリード綱を外してやり、思う存分走らせることもあります。嬉々として湖面を走りまわる愛犬に今の生きざまを重ね、充実した生活に心から満ち足りた気持ちを味わいます。

散歩で鍛えた脚力は、もう一つの楽しみ海外旅行で大いに役立ちます。昨年はチュニジアとイスタンブールを心行くまで歩き回りました。旅での好奇

心が脳の活性化に役立っていると思います。

今年八月、猛暑の中愛犬が亡くなりました。十二年間家族の一員だった愛犬の思い出話をしながら、夫婦二人だけの散歩は続けています。健康を与えてくれた彼に感謝しながら……

苦節十五年の

環境整備生活



昭和三十三年卒 二類
若山 明 久

昭和四十九年、親孝行のために二世帯住宅を新築。『親孝行したい時に親はなし』というが、翌年五月に父が癌で他界。正月に一時退院して一週間だけ生活してもらえた。泣くに泣けないせめてもの親孝行だった。

昭和五十年、幸にも松前町から上磯町に転勤。母とは十二年間同居し、親孝行ができた。

退職の前年、二軒目「終焉の住み家」として平屋を新築。

我が家は、前面が歩道付きのバス通り、裏側は川沿いに道路がある。従って、車庫、物置、花畑、菜園、葡萄畑、生け垣、庭、芝生など、全てのものが見られる。詮索好きな世間様は、物ばかりでなく、住人をも観ていたようである。だいが経つてから分かったことだが、『住人は元パイロット』と観ていたらしい。どこを観ての人物評定な

のか笑わせる話である。

私の身体には、物作りが好きな父の遺伝子がたつぷり入っている。退職後は、環境整備作業が日課となり、あらゆる業種の技術者に変身した。プロック積みを見ていた通行人から「元は何をしてましたか」と聞かれたこともあった。

物作りにはお金がかかる。資材、工作機器、工具等の購入に多くのお金を費やしたが、環境整備の『夢』を完成させた喜びは大きい。来年四月、喜寿を迎えるが、今後も元気で維持管理に一層努力したいと思う。

終身会員の皆様へ

「平成二十二年度 勇退者 激励・感謝の会」を次のように開催いたしますので、ご案内申し上げます。

- ◎平成二十二年 月十二日(土)
- ◎会場 ホテル法華クラブ
- ◎会費 六千五百円
- ◎申し込み締め切り 一月十四日(金)
- ◎申し込み方法 同封の葉書にて

あとがき

ご寄稿下さいました新会員及び終身会員の皆様、誠にありがとうございました。今後も会員の皆様のご協力を

よろしくお願いいたします。